

大学生の環境意識とライフスタイルに関する研究

平成 28 年 2 月 笠原 由博

要旨

目的

近年、地球温暖化が大きな問題となっている。気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 発表の第 5 次評価報告書によると、気候変動を緩和する政策が増えているにもかかわらず、人為起源の温室効果ガスは増え続けており、人間の活動が人間や自然システムに対し多くの影響を及ぼしているとされている。その中に生きる我々大学生のライフスタイルに関する考察を行い、温室効果ガスの削減に貢献出来るようなライフスタイルを提案する。

方法

日本の大学生 401 名、中国の大学生 229 名の大学生を対象にゴミの分別、水、電気の使用等のライフスタイルに関するアンケートや環境に対する意識に関するアンケート調査を行った。その調査データをもとに集計し、日本と中国の国別での環境意識や行動の違いや、環境意識と行動との関係性等を考察して、今の地球温暖化問題に貢献できるような大学生のライフスタイルを提案する。

結論

大学生のライフスタイルというのは当然であるが一人ひとり違っており、地球環境に関する考え方も様々だった。ただ、多くの大学生は地球温暖化問題が深刻であることを認識しており、人間一人ひとりの努力が必要だと考えているにもかかわらず、まだ実際に環境に配慮した行動には移せていない人が多いと分かった。今までの、とってきたライフスタイルというのは、すでに習慣として身に付いているものであり、それを変えるということは容易なことではなく、一人ひとりの努力が必要になってくる。そこで大学生一人ひとりが本論文で示したようなライフスタイルをとることができ、それを自分の習慣とすることができれば、エネルギー消費が少なくなり、二酸化炭素の排出量が抑えられ、自然への影響が少なくなることは確実にある。よって温室効果ガスの削減に貢献できるものと思われる。

指導教員氏名 曹 西 助教